

オンライン  
ミニ  
シンポジウム

# 住民自治が育む 地域の防災・減災力

震災復興，被災地復興の原動力は、住民主体を貫く住民自治の成熟にある。気仙沼市大谷地区の砂浜と共存する防潮堤計画，東松島市における市民協働の復興などが代表事例だ。両地区の取り組みの経過を振り返りつつ，地域防災力，地域減災力を育む住民自治のあり方を考えたい。

日時：2024年10月5日（土）午後2時～5時

第1報告「住民自治の力が防潮堤計画をかえた」

三浦友幸さん（気仙沼市議会議員）

第2報告「市民協働の復興まちづくりを実現した東松島の経験」阿部重憲さん（都市プランナー）

コメンテータ 石井山竜平さん（東北大学大学院准教授），  
塩崎賢明さん（神戸大学名誉教授）

開催方法：オンライン

ミーティングID: 608 220 1785 パスコード: 20110311

報告資料を送付しますので，9月27日までみやぎ震災復興研究センター宛，メールでお申し込みください（お名前，Eメールを明記）。

大谷海岸

私たち  
が大切に  
したいこと  
未来につな  
げたいこと

## <復興イメージの紹介>

- 海岸線の①砂浜は大谷のみなが大事にしているので，できる限り幅広く三島漁港までしっかり確保する。
- 海岸線から海洋館までの②防潮堤をかき上げて防潮堤を兼ねる。また③駐車場と子どもの遊び場になる④多目的広場も併設する。
- 漁船前のエリアに，にぎわいの拠点となる⑤遊歩道を兼ねる。海水浴場の⑥駐車場と子どもの遊び場になる⑦多目的広場も併設する。
- 三島漁港側から国道に続く⑧市道をかき上げて防潮堤を兼ねる。砂の丘の自然をできるだけ残し，⑨デッキヤンプや憩いの場を整備する。
- 海洋館側の⑩防潮堤は原型復旧し，ハマボウフウやハマナスなどの⑪海岸植物公園とする。
- 海洋館側から三島漁港側まで⑫緑化し，遊歩道・サイクリングロードを設置する。また緑化地帯を守る⑬緑地帯を整備する。
- 国道と砂浜の間は，三島漁港側まで⑭遊歩道を兼ねる。
- 復興の丘に⑮遊歩道を兼ねる。
- 復興の人工リーフとあわせて⑯砂の流出防止の研究と対策を継続して実施する。
- ⑰は経路が定まらず，今後は研究していません。

みやぎ震災復興研究センター  
miyagishinsailabo@gmail.com